

いしかりちほん

発行
2011年8月11日
11 特別号
〒060-0806
札幌市北区北6条 西7丁目
自治労北海道本部内
石狩地方本部
村上真仁
TEL:011-747-1880



第45回 全道自治体職員等 野球選手権全道優勝大会



8月5日から8日にかけて、函館市・北斗市において第45回全道野球大会が開催されました。

大会に先立ち北斗市において開会式が開催され、10年度優勝の2チームに加え、開催地枠の函館市と、それぞれの地本大会を勝ち抜いてきた強豪計28チームが一同に会し、互いに健闘することを誓い合いました。

開会宣言、大会旗掲揚の後、スポーツ大会長挨拶は北海道本部藤盛副委員長が行い、東日本大震災にも触れ選手を激励、続く実行委員長の函館市職労長谷川委員長は「甲子園の熱気に負けない

石狩市職労チーム 全道大会優勝!!



よう日ごろの練習の成果を遺憾なく発揮してほしい。互いの協力連携が求められている、スポーツを通じて交流・親睦を深めていただきたい。」とあいさつしました。
その後、優勝旗が返還され、力強い選手宣誓の後、組み合わせ抽選が行われています。
組み合わせ抽選で、石狩地本出場3チームは北広島市職労が前々年優勝の苫小牧市職労と激突、札幌市職連も同じ山に入り、石狩市職労も前年度優勝の苫小牧消防と同じ山に入り、それぞれ1回戦からのスタートとなりました。

石狩市職労初優勝!! 石狩地本管内の優勝は 平成11年以来12年ぶり



札幌市職連・北広島市職労
序盤の失点で苦しい展開に



1回戦、札幌市職連と石狩市職労が同時刻にスタート、深川市職労と対戦した石狩市職労はチーム力を生かして8対1で順当に駒を進めました。一方の札幌市職連は立ち上がりには失点、徐々に盛り返し、ホームランなどで3点を返すも追いつくことができませんでした。

一昨年優勝の苫小牧市職労と対戦した北広島市職労も1回戦から得点を許して厳しい戦いとなり、必死に反撃体制に入るも届かず、最後は7対1で敗退しました。

唯一2回戦に進んだ石狩市職労は昨年優勝の苫小牧消防協と対戦、序盤は拮抗していましたが、5回裏、デッドボールで出たランナーできっちり送り先制、この点を守りきり、3回戦に進出ししました。続く4回戦、シードで勝ち上がってきた白糠町職と対戦、2回裏と3回裏に連続得点し、このまま逃げ切りムードでしたが、6回表にツーランホームランを打たれ、試合は振り出しに戻りました。しかし、直後の6回裏に2点を返し、8回にも1点を返してそのままゲームセット、ベスト4となりました。



チーム力で他を圧倒!
投手陣が底力を発揮
|| 石狩市職労 ||

勢いに乗った石狩市職労は準決勝でもチーム力を発揮、1回から果敢にホームを狙いました。投げては投手陣が力を発揮、連続三振で倶知安町職の攻撃を封じ、5回以降着実に得点を重ね、6対0と大量リードで勝利、決勝に進出しています。

最終日の8日に行われた決勝では、もう一方の山から勝ち上がった土別市職労と対決、相手ピッチャーも好投でしたが、相手のエラーをついて初回から得点、6回にはスリーベースヒットを放ち、2点を追加、4回にも盗塁で得点につなげ、8回までは相手に得点を許しませんでした。

最終回となった9回表には投手交代の後、逆に相手の連続ヒットで3点を返されましたが、チーム全体で後続をきっちり打ち取り、最後の踏ん張りで逃げ切って、見事優勝を果たしました。



全道優勝した石狩市職労チーム

閉会式



決勝終了後に行われた閉会式では、成績発表のあと個人表彰が行われ、最優秀選手賞にエース獅子内投手、殊勲賞に部田投手、ダイヤモンド賞に鈴木捕手、そして打撃賞、勝利監督賞に矢野監督が選ばれました。受賞後、矢野監督は、「チームみんなのために戦い、自分の成績はどうでもよかったし、その気持ちが高かったと思う。チームとしてはいい選手に恵まれて幸せだった。」とコメントしています。

運営委員長挨拶では、自治労道本部長が、「強力な投手陣を中心に活躍し、優勝にふさわしいチームだった。全国大会に進出するが、参加チームの思いを背負い、この優勝に恥じないプレーを期待する。また、影で尽力された大会関係者に感謝する。」と挨拶し、全国大会出場にエールを送りました。

その後、閉会宣言がされ、3日間に渡った激闘は幕を閉じました。



石狩市職労

大会第3日目(8月8日) 決勝戦
オーシャンスタジアム

単組名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
士別市職労	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
石狩市職労	1	0	0	1	0	2	0	1	X	5

